

令和3年度 専門学校デジタルアーツ東京
学校関係者評価報告

令和3年8月16日

令和2年度学校自己評価（基準日：令和3年3月31日）をもとに評価実施

 大学 菅原学園

専門学校 デジタルアーツ東京

学校関係者評価委員会報告

学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ東京学校では、本校の学校関係者評価委員会規定に基づき委員会を実施いたしました。以下に議事進行についてその内容をご報告いたします。

今後は、各委員からの貴重な意見や提案を真摯に受け止め、学校運営の改善および教育の質の向上に努力いたします。

会議名：学校関係者評価委員会

日時：令和3年7月29日（木） 16：15～17：15

会場：専門学校デジタルアーツ東京

出席予定者：学校評価委員会、事務局

1. 学校関係者評価委員及び事務局について

(1) 学校関係者評価委員

- 業界関係者：関根史暁 (株式会社サンステラ 技術推進部課長)
業界関係者：池田聖児 (株式会社サンシャインコーポレーション 取締役)
業界関係者：東海林龍 (株式会社レオパードスタイル 代表取締役)
業界関係者：藤沢理子 (株式会社エッジワークス 取締役)
業界関係者：須藤創 (株式会社エスプラス 代表取締役)
業界関係者：江口博昭 (株式会社デジタルワークスエンタテインメント 総務部長)
卒業生：前田園香 (アニメーター)
地域住民：平山智邦 (地元企業：有限会社ツチキン 代表取締役)

(2) 事務局

- 学校教職員：都築敏明 専門学校デジタルアーツ東京 副校長
学校教職員：五十嵐ゆかり 専門学校デジタルアーツ東京 統括部長
学校教職員：平井俊之 専門学校デジタルアーツ東京 教務部 課長
学校教職員：有我正則 専門学校デジタルアーツ東京 事務管理室 事務長

2. 委員会次第

- ・代表挨拶及び学校概要紹介
- ・委員及び事務局自己紹介
- ・令和2年度自己点検・自己評価紹介
- ・討議、意見交換
- ・閉会の挨拶

3. 討議、意見交換

(1) 教育理念・目標

事務局側からコロナ禍の中、座学の多い学科についてはオンラインでの授業を一部取り入れ進めているが、実習科目の多い学科については、一方的なネット配信での授業では教育レベルが低下が懸念される、検温や消毒など感染予防に注意しながら対面での授業を今後も続け学生に対し十分な教育を提供していく方針であると説明した。令和2年度についても「学校を止めない」「教育を止めない」という目標のもと、学内でクラスターを発生させないことに注意し各学科で適切な対応を行ってきた。その結果、大きな問題もなく年度の授業時間も確保し運営することができたことを報告した。

委員側からは、業界では ZOOM などを活用しオンラインでの会議が当たり前になってきているので、学生たちもオンラインの活用に慣れていく必要はあると思う反面、実際に対面してコミュニケーションを取れずに自分の売り込みが難しくなっている現状が残念との意見があった。また、人とのコミュニケーションは対面で学ぶことが必要で、難しい状況ではあるが対面授業を行うのは賛成との意見もあった。

(2) 学校運営

事務局側から令和2年度の学校運営については適切に行われてきたと説明した。あらためてホームページ上において教育方針、各学科のシラバス、学校の財務等の情報公開がされていることを報告した。また、人事給与に関する規定についても整備され閲覧できる状態にあること、適切に運用されていることを報告し、コロナ禍の中でも教職員が安心して就業できる体制があるとした。また、このような状況の中でも各業界とは連絡を取り指導を受けながら教育に活かす活動を行ってきたが、反面地域社会に対し貢献をする動きが取れていないとの報告も行った。コロナ禍前までは、豊島区と提携しながら様々な取り組みに学校が参加していたが、現在は豊島区の動きも減少しているうえに本校としてもイベントへの参加等も自粛しているのが現状であると説明した。

委員側から池袋は駅の東口側が注目されがちであるが、学校のある駅西口側も盛り上がることを期待している。新しい施設としてグローバルリングも完成し、本校の学生のような若者たちの力で盛り上げてほしいとの要望があった。

(3) 教育活動

事務局側より、業界のニーズに沿うよう実践的なカリキュラム、シラバスを作成し、学生個々のレベルアップにつなげている。ただし、キャリアに対する意識が低い学生も増加しており、職業意識を植え付ける難しさも感じていると報告。職業教育に対する業界からの評価をもとに教育内容のさらなる改善をめざしていく考えを伝えた。

委員側からは、情報公開がされていない学校もある中、カリキュラムやシラバス等がしっかり

と情報公開されており、業界の代表というだけでなく、保護者の立場としても安心できる体制は評価できるとの意見があった。

(4) 学修成果

事務局側からコロナ禍の中でもできる限り業界との連携を取るようになっている。声優学科では実際の収録への参加や卒業公演の開催、イラストやゲーム学科では企業説明会や会社見学の実施、その他の学科においてもインターンシップや制作物の提供などで学生が業界と接点を持てるように心がけていると説明した。

委員側からは、新型コロナの影響で業界との連携が少なくなっている学校が多い中、本校の取り組みは非常に良いと評価された。今の世代は、学校だけではなく、アルバイトをする機会もなくなってしまい学生が違う年代の人と接する機会が減ってしまっている。また、例年では出来ていたインターンも経験できずに社会に出る事は、学生がかわいそうだと思う。インターンは難しくても、企業を招いて一緒に作業を行うなど、自分とは違う地位や年代の方々と関わる機会を増やしてほしい。また、技術と共に大切なコミュニケーション力を磨いていくとともに、学修成果としてモノをつくるだけでなく仕上げられる力を磨いてほしいとの要望もあった。

(5) 学生支援

事務局側から新型コロナへの感染を懸念する学生に対し、自宅での授業参加できるようライブ配信の実施や自宅でできる課題での対応も行ったと報告した。学科の特性上、すべての学科で対応するのは難しいところはあるが、本人や保護者とも相談しながら対応していきたいと説明した。

委員側からは、感染者が増加する中、できるだけ学生の学ぶ機会を確保してほしい。学校と自宅でのハイブリット型の授業ができることは良いことでこれからも続けてほしいと要望があった。

(6) 教育環境

事務局側からオンライン授業に対応するため、学内のネットワーク環境の整備や必要機材の購入を行ったことを報告した。

委員側からは、現場ではオンラインでの仕事が増えているので学生がもっとオンライン環境に慣れることができるよう学生のWiFi環境への支援もお願いしたいと要望があった。また、オンライン授業を対面に戻す基準があるのかとの質問もあった。

事務局側からは発令中の緊急事態宣言や、学生の感染状況を鑑みて、対面かオンライン授業かの判断をしている状況と説明した。

(7) 学生の受け入れ募集

委員側から美大予備校の中には、美大の2次試験まで通過した学生の学費を免除する制度があり、デジタルアーツ東京でも成績優秀者への優遇制度を活用することで、より良い学生が集まりやすく、全体のレベルを上げる事により、就職率アップにも繋げていけるのではとの意見があった。

事務局より特待生制度やクリエイティブ優遇制度など学費免除制度を設けていると説明した。また、委員側から体験入学の参加者などからオンライン授業と対面授業の割合について問い合わせを受けるかとの質問があった。

事務局側からは大学と違い本校分野では実技が中心となるので高校生からは特に質問を受けることはなく、対面での授業を当然のように考えているように感じていると回答した。

(8) 財務

ホームページ上で公開しており、適切であると判断された。

(9) 法令等の遵守

適切であると判断された。

4. 配布資料

- ・ 入学案内書
- ・ 自己評価表